

# CNA Report Japan

Newsletter focused on  
Collaborative conferencing

Conferencing News & Analysis-- Independent & Unbiased Perspective Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター 展示会レポート 2004 年 6 月

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集: 橋本啓介 [k@cna.jp](mailto:k@cna.jp) Copyright 2004 Kay Office All rights reserved.

## 展示会レポート

### CommunicAsia2004

<http://www.communicasia.com/>  
2004 年 6 月 15 日(火)-18 日(金)  
シンガポール Singapore Expo



#### 展示会場内

#### CommunicAsia - テレビ会議、ウェブ会議系多数出展

6月15日から18日の4日間シンガポールで開催された CommunicAsia に参加してきた。CommunicAsia は、通信やネットワーク関係のアジアでも最大規模の展示会で、通信機器、ネットワーク機器などが主要な展示製品。

CommunicAsia は、BroadcastAsia、EnterpriseIT などと並催され、会場のシンガポールエキスポの展示ホールはほぼすべてを使っての開催のようだった。広い会場とはいえところ狭しと大小のブースが並び、人の流れが絶えず床がみえないくらいの盛況ぶりだった。

その中で、テレビ会議、ウェブ会議、電話会議関係の製品やサービスも展示されていた。ポリコム、タンバーク、ソニー、スコッティ、FVC(ファースト・バーチャル・コミュニケーションズ)、Konftel、プレミアコンファレンシング、シンガポールテレコム、普天(China Putian)、ハーベイ・ファーイースト・ハリス・コミュニケーションズ、マイクロテル・テクノロジー、韓国サムソン、富士通アジア、Cananex、SOFTFOUNDRY などが会議システム等の展示を行っていた。

テレビ会議については、IP を視野に入れた製品やソリューションの展示がほとんどで、ハーベイ・ファーイースト・ハリス・コミュニケーションズ(中国)が、ISDN のテレビ電話を展



示していた程度。その他は、PC ベースのウェブ会議系や電話会議端末系がそれぞれ

数社出展している感じであった。

#### 各社レポート - IP テレビ会議、SIP ソリューションなど注目

##### ポリコムブース

ポリコムでは、テレビ会議、ウェブ会議、電話会議をシームレスに統合するソリューション Polycom Office を始め、最近日本で発売された、液晶モニター一体型テレビ会議シス



テム VSX3000 を始め、セットトップ型 VXS7000、ハイエンド型の VS4000、

ウェブ会議用の Web Office、低価格型の V500(日本未発売)などほぼ全製品を展示。ブースでは、アジア各国の担当者が来場者の対応をおこなっていたが、日本法人から数名来ていて、営業部 菊池 龍太氏にブース内を案内していただいた。

タンバークブースでは、TANDBERG8000、TANDBERG7000、また(写真上:TANDBERGブース)

最近発売開始された多地点接続装置 MXP、医療用 TANDBERG INTERN II(日本未発売)、ポータブルテレビ会議 TACTICAL を展示していた。

ソニーブースでは、遠隔監視ソリューションや、PCS-1、PCS-11 などのテレビ会議システム等が展示されていた。テレビ会議システムについては、先般東京、名古屋、大阪で開催された、ソニービジネスソリューション 2004 で展示された、次世代のテレビ会議システムも披露されていた。

先般のソニービジネスソリューションで展示された製品は、モックアップであったが、今回見たものは実働製品で他のテレビ会議システムと接続したデモを行っていた。



ソニーは、PCS-1と、PCS-11の次に、ハイエンドタイプのもの「PCS-G70」と、オールインワン

タイプのもの「PCS-TL50」の2機種を、PCS シリーズに投入する予定。(ソニーテレビ会議 & 遠隔監視写真上)

富士通アジアは、富士通アジアはアジア地域に対して IT ソリューションなどを提供する目的で設立された、富士通の 100%子会社。

同社が提供するソリューションの中では、テレビ会議系のももあり、同社では企業向けには、ポリコム(Polycom)のテレビ会議や FVC のウェブ会議を販売している。また、ISP、通信サービスプロバイダー向けソリューションとしては、SIP に対応した



、INNOMEDIA社(シンガポール)の IP テレビ電話 (400US

D~500USD 写真上)、SIP サーバー、ADSL モデムなどを組み合わせたソリューションを販売しており、富士通アジア ネットワークシステムズビジネスグループ次世代ネットワークビジネス副ディレクターの Lam Pang Ngean 氏の説明によると、現在東南アジアの通信事業者で同 IP 電話ソリューションをベースとしたサービスが現在稼働しているようだ。

ハーベイ・ファーイースト・ハリス・コミュニケーションズは、中国の会社で PBX を主力製品として開発しているが、ISDN 向けのテレビ電話(見た目は三菱電機、NTT の ISDN テレビ電話に酷似しているが独自開発と同社では言っていた。)も開発しており、同社ブースでは同テレビ電話も展示していた。価格は、同社国際セールス部プロジェクトマネージャー



James Jia 氏によると、500USD から 600USD で販売され

ているという。

韓国サムソンのブースでは、現在韓国で使用されている、第三代携帯電話によるテレビ電話のデモ、テレビ放送受信、VOD、また、SIP 対応のテレビ電話ソリューションも展示していた。

また、普天(China Putian)では、台湾通信工業(TTIC)が開発した、H.323 対応の TIA-8000 と TIA-2200(関連台湾リポート: CNAリポート・ジャパン Vol.5 No.16 2003 年 9 月 30 日号)と ADSL モデムを組み合わせたコンシューマー向けの IP 電話サービスの展示を行っていた。



Konftel 社 電話会議システム スエーデンの電話会議端末のメー



カーである、Konftel 社は、同社のシンガポールパートナーである、オレンジコミュニケーションズ社がブース出展し、アナログ回線を使用した電話会議端末から、携帯電話と接続できるモデル(携帯電話を回線として使用する)、ワイヤレス対応のモデルなどを展示していた。オレンジコミュニケーションズ社セールス&マーケティングマネージャー Catherine Gasper 氏によると、同社は、シンガポールやその他東南アジア各国での販売を手がける。同社によると、昨年から Konftel 社の製品を取り扱っているという。他社競合の電話会議端末に比べ価格性能・機能比に勝ると自信を示す。電話会議は気軽に導入でき、特に SARS 以降電話会議を導入する企業は増えているのではないかと見ている。



スコティ社  
ブース(青  
い筐体は  
教育用テ  
レビ会議シ  
ステム)

スコティ  
社は、オ  
ーストラリ

アの企業で、数年前米のザイダクロン社というテレビ会議メーカーを買収している。スコティ社は、軍事や警備関係のテレビ会議ソリューションに強く、オーストラリア沿岸警備隊や各国軍隊などにリアルタイムの映像を移動中の航空機などから本部に送信するというソリューションを提供している。たとえば、オーストラリアの沿岸警備隊では、国籍不明船などの



の追尾に、同ソリューションが使用され不明船のリアルタイムの映像を本部に衛星回線を使い送信され、また逆に本部からはそれらの映像をもとに指示をリアルタイムで現場に出せるというシステムを組んで効果的な沿岸警備を行っているという。

SCOTTY WARP オールイ

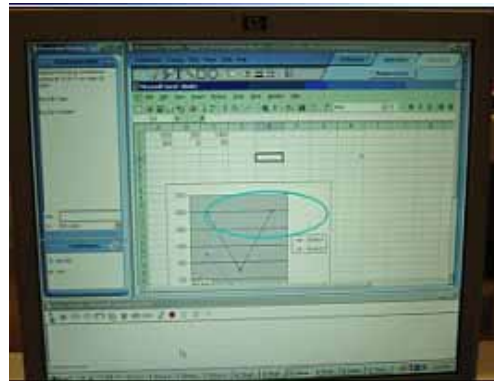
### ワンタイプ PC テレビ会議システム

また、アフガニスタン、イランなどからの放送関係者がテレビ電話を使つてのレポートがあったが、同社のポータブルのテレビ会議システムが活躍しているという。

ブースでは、新たに販売開始した、オールインワンタイプの PC 型テレビ会議システム「Warp」と、H.264 に対応したテレビ会議 PC ボード用コーデックを披露していた。

スコティ社の COO(最高執行責任者)である Gibson M. Villanueva II 氏によると、「今後は日本など極東地域にも力を入れていきたい。」と抱負を述べる。日本では、日本 FA システム(神奈川県横浜市)がスコティ社の販売代理店になっている。

シンガポールテレコムでは電話会議、テレビ会議、ウェブ会議サービスを展開しており、同社のブースでは、同社が秋以降リリースする新しいバージョンのウェブ会議サービスのデモを行っていた。アカウントを取得し、ウェブ会議サーバーに接続、そして会議を開始することができるが、パワー



ポイント共有、アプリケーション共有、チャットなどの機能を提供している。シンガポールテレコムはウェブ会

議以外に電話会議やテレビ会議サービスも提供している。

FVC では、同社の H.323 対応の PC ウェブ会議



ClickToMeet を展示していた。PC ウェブ会議だけでなく、H.323 対応の強みを見せる意味で、ソニ

一のPCS-1600との連動接続のデモも行っていた。(FVCブース写真上)

Cananex社は、米ウェブ会議システム WiredRed Software社のウェブ会議システムを販売している。製品の機能としては、一般的なアプリケーション共有、ホワイトボード共有などがおこなえ、ユーザーインターフェイスもしっかりしている。同社のサポートエンジニアのDenis M.C. Tan氏とOng Yang Peng氏によると、やはりSARS以降会議ツールの関心は高くなったようだが、シンガポールは中継貿易などでいままでもアジアの貿易ハブとして発展してきた経緯からウェブ会議への需要は高いと見る。同社でWiredRed Software社のウェブ会議システムを取扱い開始したのは今年に入ってからという。

シンガポールのSOFTFOUNDRY Internationalは、MPEG4を使ったPC向けテレビ電話vfonの展示とデモを行っていた。テレビ電話はサービスとして提供しているようで、個人向けのテレビ電話サービスは、月額シンガポールドル(以下S\$)で、9ドル(約570円)で「DVDクオリティの映像通信が可能。」(同社副社長 Raymond Shi氏)。上記写真は、シンガポールの会場と上海(女性)と北京(男性)と3ヶ所を結んだデモを行って頂いたところ。



共有などの  
コラボレー  
ションサー  
ビスが付加  
されたエン  
タープライ  
ズ版  
(vmeetと  
呼ぶ)にな  
ると、月額

S\$20(約1300円弱)となってアプリケーション共有などが行える。(vfone写真上)

マレーシアテレコムも出展してはいたが、同社担当者から、テレビ会議、電話会議、ウェブ会議のサービスは行ってはいるが今回はブースでは展示はしていないと説明を受けた。

インドの通信事業者BSNLも出展しており、同社の副ディレクター Anil Jain氏に話しを伺ったところ、BSNLでもテレ

ビ会議や電話会議サービスを近い将来開始する予定があるとのこと。インドでも会議ツールの関心が高まっているようだ。(関連インポート: CNAリポート・ジャパン Vol.5 No.3 2003年2月15日号)

#### まとめ

一般の来場者の中では、電話会議とは一体どんなものか、テレビ会議はどんなものかという初歩的な質問をする来場者もいたが、会場内で配布されていた、CommunicAsia デイリー新聞でもIPテレビ会議でアジアは北米を追い越すというような見出し記事があり、東南アジアでもIPテレビ会議やウェブ会議への関心の高まりは強く感じられた。

特に、各ブースで聞かれたのは、SARS以降は関心が非常に高まった、需要の高まりとともに会議関係のビジネスを始めた、という声や国際ビジネスが活発なシンガポールでは、やはりいちいち飛行機などで取引先などへ飛ぶのも大変なため会議ツールへの関心は非常に高まっているなどの声が聞かれた。

(CommunicAsiaリポート終わり)

CANリポート・ジャパン

編集長 橋本 啓介 [k@cna.jp](mailto:k@cna.jp)

(CNA Report 展示会リポート 2004年6月)